

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年3月6日】第158号



食中毒を防ごう

2月27日(月)、4年生の稲花タイムでは、東京農業大学食品安全研究センター(FSRC)から五十君静信先生、美谷島克宏先生、煙山紀子先生、田村倫子先生、高橋公咲先生、そして、東京情報大学看護学科からは高柳千賀子先生、金丸友先生にお出かけいただき、「親子丼でお腹がこわれる?」という食中毒についての授業をしていただきました。調理実習で親子丼、みそ汁、サラダを作って食べ、3日後にお腹がこわれたという設定で、子どもたちは保健所の所長になって原因を突き止めるという授業でした。怪しい鶏肉にはよく火が通っているし、手はよく洗ってあるし、すぐではなく3日後に…と推理を重ねていきます。準備していただいたパワポや動画が充実しており、子どもたちも集中して問題解決?に取り組んでいました。まな板や包丁の細菌汚染を視覚化してみる体験もさせていただきました。鶏肉から生で食べるサラダにまな板や包丁を介して細菌が運ばれたということで、食中毒の予防や食品の安全について考えるよい機会となりました。

噛むことマスター

3月2日(木)は株式会社ロッテの池田様、岡林様、松井様による「めざせ噛むことマスター」という2年生対象の授業が行われました。噛むことの大切さをさまざまな観点から学ぶのです。わかりやすいパワポとともに、噛むと色が変わるガムには、お家でもやりたいのもう一つ欲しい!の声もあがりました。また、口とその周りの筋肉をきちんと使えるかどうかをフーセンガムで試してみるという、楽しい体験もしました。最後に、本校の養護教諭より歯の大切さについても説明を受けました。

今まで急いで給食を食べていたけれど、もっとしっかり噛もうと思った、ガムをはじめて噛んだ、歳を取っても歯が大切だとわかった、など子どもたちなりに考えた感想が聞かれます。意識してよく噛むことを5日間続ける宿題のチャートを家庭に持ち帰りました。ご家庭でも、お子様とともに噛むことを意識した生活をしていただければ幸いです。

3月6日は法人の日

3月6日(月)は法人の日で、法人傘下の学校はみなお休み。農大稲花小も休校です。そこで、法人の日を前にした3月3日(金)の1年生の稲花タイムでは、東京農業大学のはじまりと榎本武揚先生についてのお話を校長がいたしました。

農大稲花小の子どもたちは、榎本先生や横井時敬先生の話の日頃から聞く機会が多く、親しみを持っています。1年生は榎本先生が一人で外国に勉強にいったことを知り、さびしかったのでは、言葉がわからなくて困ったのでは、と自分のことのように感じていました。また、五稜郭の戦いで破れ、入獄後に許され、明治政府で大活躍した話では、なぜ負ける仲間と一緒に戦ったのだろう、

牢屋から出されたとき仲間も出してもらったのかな、などと想像を巡らせてもいました。

本校では「東京農業大学創立 130 周年記念誌 学祖群像」を全員に配付してあるせいでしょうか、幼名釜次郎など、榎本先生についてよく知っている子どもが意外に多くいました。「学祖群像」をご家庭でも一緒に読んでいただいている様子がかがわれ、うれしいことでした。

保護者会で

3月2日(木)には1年生と4年生の、3月3日(金)には2年生と3年生の保護者を学校にお迎えし、全体会と学級懇談会が行われました。全体会では共通して、小、中、高一貫校の良さを活かして、詰込みの勉強をさせることなく、学校の学習を大切に、また、子どもたちが心に余裕のある毎日を過ごせるようにと、保護者のご協力をお願いしました。学校の学習が十分にできていないのに、二本立ての勉強は無理であり、子どもの心にもよい影響を与えません。節目での受験がない一貫校だからこそ、好きな勉強に励んだり、音楽やスポーツにいそしんだり、読書に没頭したり、あるいは友だちと遊んだり、それぞれの個性にあった、そして心が豊かになるような過ごし方をしてもらいたいと願っています。

新年度を前に

3学期も終わりに近づき、子どもたちは自分たちの進級を心待ちにしているようです。全学年でクラス替えや担任交代を予定しているので、不安に思っている子どももいることでしょう。保護者の皆様にはぜひ、新年度の新しい環境を前向きにとらえられるよう、子どもたちの背中をやさしく押していただくようお願いいたします。子どもたち自身も、今までの自分からさらに脱皮し、自分を新しくする機会でもあります。もとより1学年72名の小さな学校です。学年全員が、また学校全員が友だちになれるように、さらに、それぞれの個性を大切にできる関係であることを願っています。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子